

2027年3月期 第1四半期決算説明資料

第1四半期決算の概要（連結）
トピックス
通期の業績見通し



日本光電工業株式会社
銘柄コード：6849
2026年8月6日

1) エグゼクティブサマリー

1Q実績

前年同期比 売上高 $\Delta 5.2\%$ (国内 $\Delta 15.0\%$ アボット製品除く $+0.3\%$ 、
海外 $+10.3\%$ 為替影響除く $+1\%$)
営業損失 9億円 (前年同期は14億円の営業利益)

- 売上高
国内： アボット製品終了影響を除く実質ベースでは前年同期並み。
自社品は堅調に推移。アボット製品が減少し、現地仕入品の抑制も進む
海外： 欧州、アジア州他で好調に推移し、二桁成長。
北米、中南米では現地通貨ベースで前年同期を下回る
- 営業損失： 国内での減収に加え、賃上げ対応等により販管費が増加

通期見通し

(期初予想を据え置き)

- 売上高 2,325億円
国内： アボット製品終了・ドゥウェル社連結の影響除く $+8\%$ 。自社の製品・消耗品・サービスの販売に注力
海外： 円ベース $+9\%$ 、現地通貨ベース $+9\%$ 。全ての地域で増収を目指す
- 営業利益 235億円
アボット製品終了に伴う減収影響はあるものの、粗利率は商品ミックスの良化により改善する見込み。
販管費は、賃上げ等による人件費、社内ITシステム投資等に伴う減価償却費が増加する見込み。
全社収益改革の3つの領域における施策展開を継続

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

 NIHON KOHDEN

1

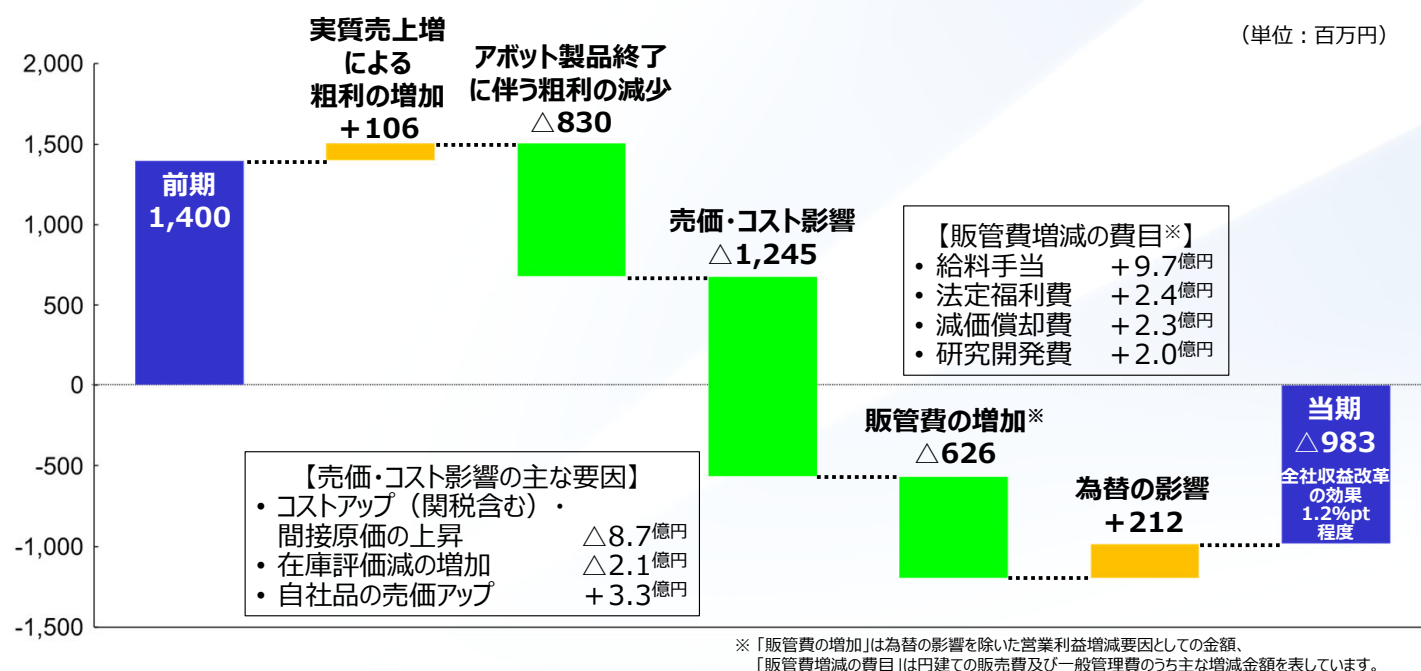
- 国内では、自社品は堅調に推移した一方で、アボット製品が減少し、現地仕入品の抑制も進みました。
アボット製品を除く実質ベースの売上高は前年同期並みとなりました。
- 海外では、欧州、アジア州他で好調に推移し、二桁成長となりました。
北米、中南米では、現地通貨ベースで前年同期を下回りました。
- 国内での減収に加え、賃上げ対応等により販管費が増加したことから、
9億円の営業損失となりました。
- 第1四半期は、減益の計画ではございましたが、
国内売上高および粗利率が想定を下回ったことから、
営業損失に転じました。
- 通期の業績予想につきましては、元々、下期を中心に伸ばす計画であり、
変更ありません。

2) 決算概要

	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)	(単位：百万円、単位未満切捨て)
売上高	50,020	47,405	- 5.2	
国内売上高	30,686	26,080	- 15.0	← アボット製品除く：+0.3%
海外売上高	19,334	21,325	10.3	← 為替影響除く：+1%
売上総利益 (売上総利益率)	26,316 52.6%	25,459 53.7%	- 3.3	
販管費 (販管費率)	24,915 49.8%	26,442 55.8%	6.1	
営業利益 (営業利益率)	1,400 2.8%	- 983 —	—	
経常利益	473	- 339	—	← 為替差損益：差損10億円 → 差益5億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	137	- 756	—	
平均レート (円) 1米ドル/1ユーロ	146.3/162.7	159.4/185.4		

- PLはご覧のとおりです。

3) 営業利益増減の要因分析



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

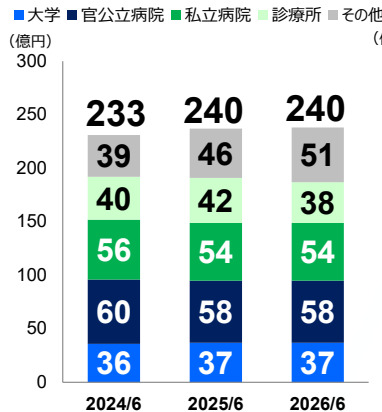
NIHON KOHDEN

3

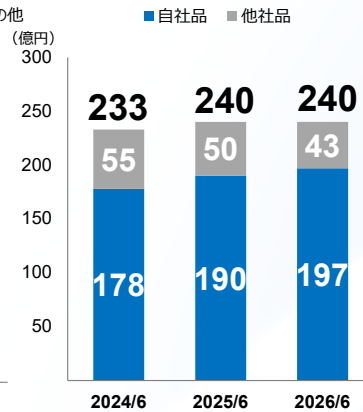
- 営業利益増減の要因分析です。
- 実質売上増による粗利の増加は1億円、アボット製品の取り扱い終了に伴う粗利の減少は8億円となりました。
- 売価・コストにつきましては、自社品の売価は上昇したものの、コストアップや在庫評価減の増加等により、12億円のマイナス要因となりました。
- 販管費につきましては、賃上げ対応等により、6億円のマイナス要因となりました。
- 為替の影響は、2億円のプラス要因となりました。

4) 国内売上高 (Abbott製品除く)

【市場別売上高】



【自社品/他社品売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

国内売上高 (Abbott製品除く)	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)
生体計測機器	3,990	4,276	7.2
生体情報モニタ	8,482	8,997	6.1
治療機器	5,272	4,697	- 10.9
その他	6,280	6,122	- 2.5
売上高合計	24,027	24,093	0.3

(参考)

医療機器	9,328	9,907	6.2
消耗品・サービス	14,698	14,186	- 3.5

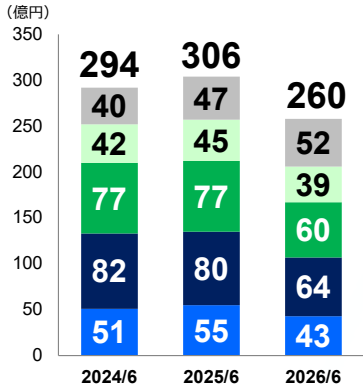
【市場別】 大学、官公立病院、私立病院市場では前年同期並みを確保。診療所市場では減収
 【商品群別】 **自社品/他社品**： 自社品は、臨床情報システム、診断情報システムが好調に推移。他社品は、画像診断装置、現地仕入品が減収
生体計測機器： 診断情報システムが二桁成長。心電計群、脳神経系群も堅調に推移
生体情報モニタ： 臨床情報システムが大幅増収となったほか、送信機が新製品効果もあり好調に推移
治療機器： AEDが好調だった前年同期を下回る
その他： 画像診断装置、現地仕入品が減収。検体検査装置・試薬は好調に推移

- 国内売上高は、Abbott製品を除くと前年同期並みとなりました。
- 市場別では、大学、官公立病院、私立病院市場では前年同期並みで推移した一方、診療所市場では減収となりました。
- 自社品は、臨床情報システム、診断情報システムが好調に推移しました。他社品は、画像診断装置、現地仕入品が減収となりました。
- 商品別では、生体計測機器、生体情報モニタが好調に推移したものの、治療機器、その他商品群は前年同期を下回りました。
- 生体計測機器では、診断情報システムが二桁成長となり、心電計群、脳神経系群も堅調に推移しました。
- 生体情報モニタでは、臨床情報システムが大幅増収となったほか、送信機が新製品効果もあり好調に推移しました。
- 治療機器では、期初の想定どおり、AEDが好調だった前年同期を下回りました。
- その他商品群では、画像診断装置、現地仕入品が減収となりました。一方、検体検査装置・試薬は好調に推移しました。

[参考] 国内売上高 (アボット製品含む)

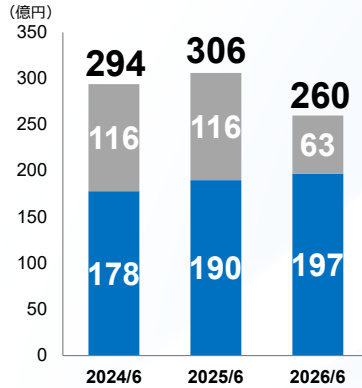
【市場別売上高】

■ 大学 ■ 官公立病院 ■ 私立病院 ■ 診療所 ■ その他



【自社品/他社品売上高】

■ 自社品 ■ 他社品



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

国内売上高 (アボット製品含む)	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)
生体計測機器	8,492	5,652	- 33.4
生体情報モニタ	8,482	8,997	6.1
治療機器	7,430	5,307	- 28.6
その他	6,280	6,122	- 2.5
売上高合計	30,686	26,080	- 15.0

(参考)

医療機器	9,911	10,097	1.9
消耗品・サービス	20,774	15,982	- 23.1

うちアボット製品 売上高	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)
生体計測機器	4,501	1,376	- 69.4
治療機器	2,157	610	- 71.7
売上高合計	6,658	1,986	- 70.2

(参考)

医療機器	582	190	- 67.3
消耗品・サービス	6,076	1,795	- 70.4

【アボット製品の業務引継ぎ】 26/6末までに80%程度完了、
26/9末までに95%程度完了予定

- アボット製品を含む国内売上高はご覧のとおりです。
本年12月末の取り扱い終了に向けて業務の引継ぎは予定どおり進んでいます。

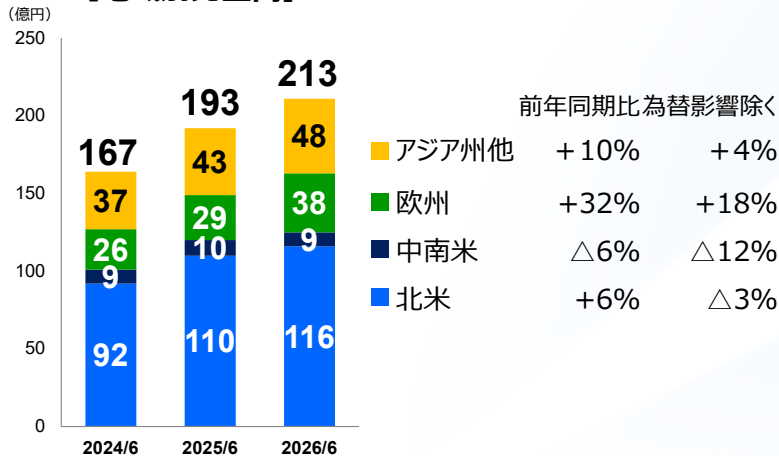
5) 海外売上高

【海外売上高】前年同期比+10%
(為替影響除く: +1%)

【海外売上高比率】

2026/3 1Q	2027/3 1Q
38.7%	45.0%

【地域別売上高】



【商品群別売上高】

	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)	為替影響 除く (%)
生体計測機器	4,108	4,229	2.9	-4
生体情報モニタ	7,883	8,358	6.0	-3
治療機器	5,628	6,905	22.7	12
その他	1,713	1,831	6.9	-0
売上高合計	19,334	21,325	10.3	1

(参考)

医療機器	11,945	12,722	6.5	-3
消耗品・サービス	7,388	8,602	16.4	8

【地域別】 欧州で大幅増収、アジア州他でも好調に推移。北米、中南米では現地通貨ベースで前年同期を下回る
 【商品群別】 **生体計測機器**：欧州、中南米で大幅増収も、アジア州他で減収、北米も現地通貨ベースで前年同期を下回る
生体情報モニタ：欧州で大幅増収も、現地通貨ベースでは北米、中南米、アジア州他で前年同期を下回る
治療機器：欧州、アジア州他で大幅増収、北米でも二桁成長

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

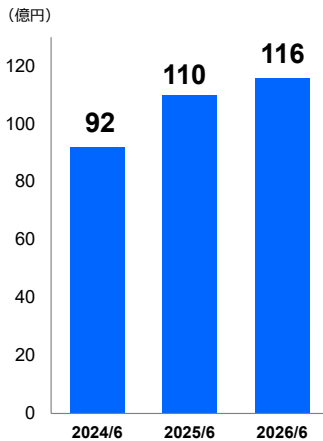
6

- 海外売上高は、円ベースで二桁成長、現地通貨ベースでは1%の増収となりました。海外売上高比率は45%に上昇しました。
- 商品別では、治療機器が、欧州、アジア州他で大幅増収、北米でも二桁成長となりました。その他商品群も前年同期を上回りました。生体情報モニタ、生体計測機器は、円ベースでは増収となりましたが、現地通貨ベースでは前年同期を下回りました。

5.1) 北米

- 現地通貨ベースで前年同期を下回るも、円ベースでは増収
- AED、生体情報モニタ、脳神経機器が現地通貨ベースで前年同期を下回る。人工呼吸器は大幅増収

前年同期比 +6%
(為替影響除く△3%)



【商品群別】 ※ 為替影響を除く増減率

- **生体計測機器** : △1桁半ば
脳神経機器が好調だった前年同期を下回る
- **生体情報モニタ** : △1桁半ば
機器が減収となった一方、センサ類など消耗品は二桁成長
- **治療機器** : +1桁前半
人工呼吸器が大幅増収。AEDは前年同期を下回る
人工呼吸器はマスク型に加え、気管挿管型も好調に推移

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

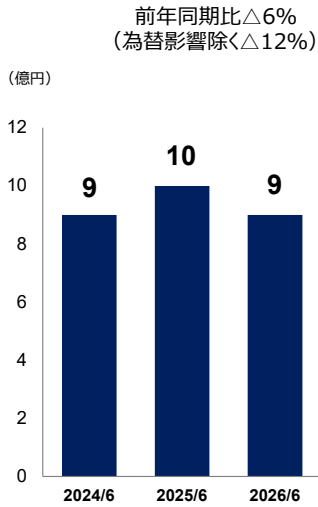
NIHON KOHDEN

7

- 北米は、現地通貨ベースでは前年同期を下回りましたが、円ベースでは増収となりました。
- 商品別では、生体計測機器は、脳神経機器が好調だった前年同期を下回りましたが、脳波計、在宅睡眠記録装置、アドテック製品ともに需要は底堅く推移しています。
- 生体情報モニタは、大口商談の納品・設置が期ずれたことから前年同期を下回りましたが、受注は好調に推移しており、第2四半期以降は増収を見込んでいます。センサ類など消耗品は二桁成長となりました。
- 治療機器は、人工呼吸器が大幅増収となりました。AEDは前年同期を下回りました。

5.2) 中南米

- 前年同期に好調だったグアテマラ、パラグアイを中心に減収。メキシコは大幅増収



【商品群別】 ※ 為替影響を除く増減率

- **生体計測機器** : +20%台後半
脳神経系群が大幅増収。心電計群は減収
- **生体情報モニタ** : △40%台後半
前年同期に好調だったペルー、ブラジル、グアテマラを中心に減収
- **治療機器** : △10%
除細動器、人工呼吸器が前年同期を下回る。AEDは増収
- **その他** : +20%台前半
メキシコで医療機器の保守サービスが伸長

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

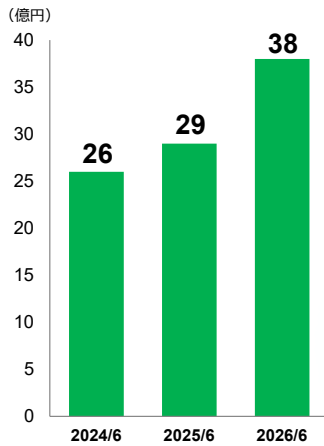
8

- 中南米では、前年同期に好調だったグアテマラ、パラグアイを中心に減収となりました。一方、メキシコは大幅増収となりました。
- 商品別では、生体計測機器、その他商品群は好調に推移したものの、生体情報モニタ、治療機器が減収となりました。
- 中南米は12月決算ですが、第2四半期ではメキシコ、ブラジルを中心に好調に推移し、二桁成長となる見通しです。

5.3) 欧州

- オランダ、ドイツに加え、大口商談を獲得したギリシャ、ポーランドを中心に大幅増収

前年同期比+32%
(為替影響除く+18%)



【商品群別】 ※ 為替影響を除く増減率

- **生体計測機器** : +30%台後半
ギリシャで大口商談を獲得した心電計が大幅増収
- **生体情報モニタ** : +10%台前半
大口商談を獲得したポーランドに加え、ドイツも好調に推移
- **治療機器** : +30%台半ば
オランダを中心にAEDが大幅増収
- **その他** : △40%台後半
検体検査装置・試薬が減収

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

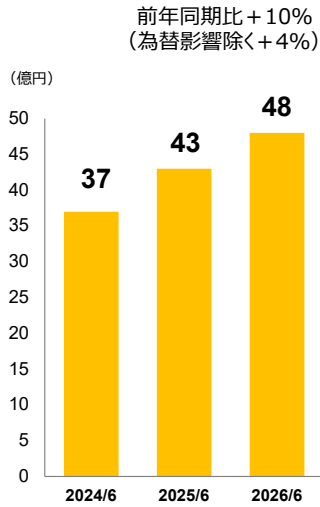
NIHON KOHDEN

9

- 欧州では、オランダ、ドイツに加え、大口商談を獲得したギリシャ、ポーランドを中心に大幅増収となりました。
- 商品別では、生体計測機器、治療機器が大幅増収、生体情報モニタも二桁成長となりました。一方、その他商品群は減収となりました。

5.4) アジア州他

- 中近東・アフリカ（サウジアラビア、エジプト、UAE）、インドを中心に二桁成長



【商品群別】 ※ 為替影響を除く増減率

- **生体計測機器** : △ 20% 台後半
脳神経系群、心電計群ともに好調だった前年同期を下回る
- **生体情報モニタ** : △ 1 桁前半
タイを中心に好調だった前年同期を下回る
- **治療機器** : + 20% 台前半
サウジアラビアで大口商談を獲得した除細動器が大幅増収
AED、人工呼吸器も好調に推移
- **その他** : + 10% 台半ば

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

10

- アジア州他では、中近東・アフリカ、インドを中心に二桁成長となりました。
中東情勢につきましては、第1四半期における中近東での売上影響は限定的でしたが、東南アジアの一部の国において、原油価格の高騰に伴う政府予算の縮小や設備投資抑制の動きが見られました。
- 商品別では、治療機器、その他商品群が二桁成長となりました。
一方、生体計測機器、生体情報モニタは、好調だった前年同期を下回りました。

[参考] 商品群別売上高・粗利率

(単位：百万円)

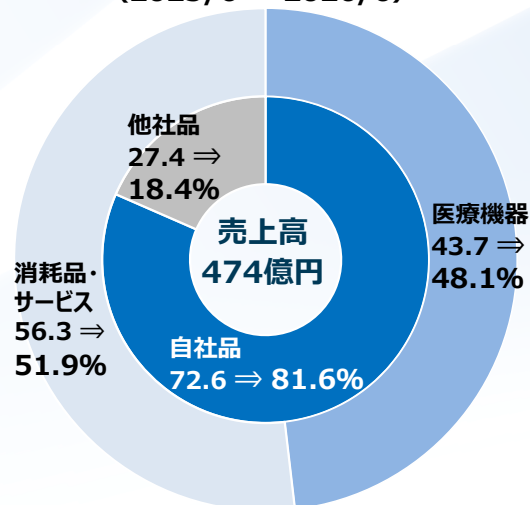
	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)	アボット製品 除く (%)
生体計測機器	12,600 (45%)	9,882 (50%)	- 21.6	5.0
生体情報モニタ	16,366 (66%)	17,356 (63%)	6.0	—
治療機器	13,058 (44%)	12,213 (45%)	- 6.5	6.4
その他	7,994 (50%)	7,954 (52%)	- 0.5	—
売上高合計	50,020 (53%)	47,405 (54%)	- 5.2	4.7

(参考)

医療機器	21,856 (55%)	22,820 (54%)	4.4	6.4
消耗品・サービス	28,163 (51%)	24,585 (54%)	- 12.7	3.2

※ 表の括弧内は、粗利率を示しています。

商品群別売上構成比
(2025/6 ⇒ 2026/6)



- 商品群別の売上高、粗利率はご覧のとおりです。
- 生体情報モニタに加え、アボット製品を除くベースでは、生体計測機器、治療機器も好調に推移しました。

[参考] 商品群別売上高の内訳

(単位：百万円)

生 体 計 測 機 器	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)	治 療 機 器	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)
脳 神 経 系 群	3,747	3,695	- 1.4	医 科 向 け 除 細 動 器	1,839	2,075	12.8
心 電 計 群	1,419	1,494	5.3	A E D	6,229	6,418	3.0
心臓カテーテル検査装置群*	4,764	1,623	- 65.9	人 工 呼 吸 器	2,329	2,862	22.9
診 断 情 報 シ ス テ ム 群	1,223	1,363	11.4	ペ ー ス メ ー カ ・ I C D *	731	243	- 66.8
そ の 他 ※	1,445	1,706	18.0	そ の 他 *	1,929	614	- 68.2

※その他には、他社製の生体計測機器を含みます。

生 体 情 報 モ ニ タ	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)	そ の 他	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減率 (%)
生 体 情 報 モ ニ タ 合 計	16,366	17,356	6.0	検 体 検 査 装 置	3,018	3,311	9.7
うち 臨床情報システム群	773	1,460	88.8	画 像 診 断 装 置 他 ※	4,976	4,642	- 6.7

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

*2026年12月末に取り扱い終了予定のアボット製品を含みます。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



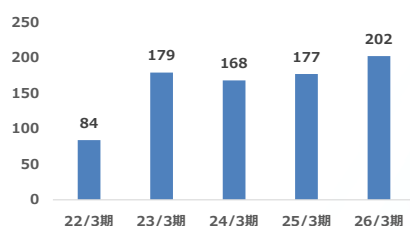
12

- 商品群別売上高の内訳は、ご覧のとおりです。

6) トピックス 成長性 製品競争力の強化

アラームレポート新規契約施設数 (日本)

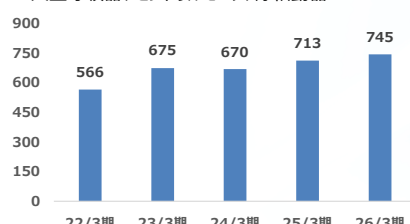
アラームマネジメント
の高度化



MD Linkage接続台数 (日本・海外)

遠隔監視システム
の普及

※ 接続機種：検体検査装置、人工呼吸器、セントラルモニタ、除細動器



26/3期-27/3期 主な新製品・サービス

NEW!

アラームソリューション AlarmSense

26/3期2Q：米国、
27/3期：欧州（予定）

- ・ 病院全体でアラーム傾向を分析・表示

NEW!

オンサイトアラーム分析 ソフトウェア QP-841N

26/3期4Q：日本

- ・ 患者さんごとにアラーム発生状況・原因をリアルタイム分析

医療従事者の
業務負荷軽減

NEW!

全自動血球計数・免疫反応測定装置 MEK-1303セルタックα+用 +Dダイマーライセンス QL-131W

27/3期1Q：日本

- ・ Dダイマー※1をCBC ※2と同時に測定可能



※1 Dダイマー：血栓が形成された可能性を把握するために有用
※2 CBC（Complete Blood Count）：全血球計算値

サービス事業の
拡大

安定収益基盤
の確保

（参考）サステナビリティ マテリアリティ・KPIの実績を開示（26年7月）

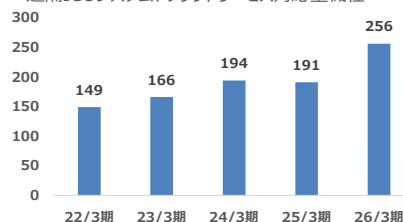
https://www.nihonkohden.co.jp/sustainability/nk_sustainability/materiality.html 13

- 製品競争力の強化について、サステナビリティ経営の中で医療課題の解決に取り組んでいるKPIの実績推移と関連の新製品・サービスをご紹介します。
- 生体情報モニタのアラームマネジメントについては、レポートの採用施設が順調に増加しています。米国で現地開発したアラームソリューションに加え、日本でも患者さんごとにリアルタイムでアラームを分析するソフトウェアを新たに提供開始しました。医療従事者の業務負荷軽減につながります。
- 医療機器リモート監視システム MD Linkageも、接続機種や接続台数が増加しています。最も接続台数が多い検体検査装置では、新たにDダイマーを測定できるライセンスを日本で発売しました。体内で血栓が形成された可能性を迅速に把握できることから、診療所を中心に商談が増加しています。

成長性 製品競争力の強化

DX導入施設数 (日本)

※患者容態把握ダッシュボードソフトウェア、
遠隔ICUシステム、クラウドサービス対応型機種



DHS構想の推進

26/3期-27/3期 主な新製品・サービス

NEW!

入退院業務支援ソフトウェア QP-842N

26/3期4Q：日本

- 入退院・転棟など
病床管理に必要な情報を
自動取得・集約・可視化



医療従事者の
業務負荷軽減

病床稼働率の
向上
在院日数の
短縮

病院経営の
効率化
医療経済性の
向上

ソリューション
事業の拡大

安定収益基盤
の確保

遠隔モニタリングソリューション RemoteSense

25/3期：米国

- 複数医療機関の患者さんの
バイタルサインをWebで閲覧
可能

26/3期：4施設導入（米国）

患者容態把握ダッシュボード ソフトウェア QH-101N

25/3期：日本

- バイタルサインから
早期警戒スコアを演算・表示
（一般・重症病棟向け）

26/3期：4施設導入（日本）

クリニカルアシスタントサービス PrimeBridge

25/3期：検査室プラン（日本）

26/3期4Q：病棟プラン、麻酔記録連携プラン
を追加（日本）

NEW!

- 患者情報を一元管理、院内外で参照
可能。ニーズに合わせプランを選択可能

26/3期：19施設導入（日本）

（参考）サステナビリティ マテリアリティ・KPIの実績を開示（26年7月）

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN https://www.nihonkohden.co.jp/sustainability/nk_sustainability/materiality.html 14

- DHS構想を推進する中、医療DXに寄与する製品の導入施設も大きく増加しています。ここ数年で上市したご覧のDHS製品についても、国内外で導入実績が出始めています。直近では、中小病院向けのクリニカルアシスタントサービスPrimeBridgeについて、検査室プランに加え、新たに病棟プラン、麻酔記録連携プランを追加しました。
- 引き続き、国内外でソリューション型事業への変革を加速し、医療従事者の業務負荷軽減、病院経営の効率化などグローバルな医療課題の解決に貢献します。

27/3期
目標営業利益率改善
5%pt

- ✓ 25/3期：0.8%pt ⇒ 26/3期：3.0%pt（前期比+2.2%pt）
27/3期：4.5%pt（前期比+1.5%pt）
- ✓ 5%pt改善に向け、引き続き3つの領域における施策展開を継続

人員生産性の向上

これまで

これから

業務効率化

営業活動
計画

- 顧客情報を複数システムで管理し、確認・共有に時間を要す

提案・
商談

- 商談毎の活動状況・情報更新が属人化
- 営業員の経験・スキルに依存

アフター
サービス

- 顧客情報が関係部門の間で分断
- 対応履歴を複数システムで管理

新CRM※の稼働（日本）

26年7月

顧客情報を一元管理

営業ターゲットの質向上

知識・スキル・ナレッジをチームで共有

質の高い顧客価値提案

顧客対応履歴を集約・蓄積

問合せ・不具合対応を迅速化

営業・サービス・カスタマーセンタが一体となり
CX（顧客体験）を向上

自社開発AIアプリ

日報分析アプリ
KPIダッシュボード
営業データの可視化・分析日報音声入力アプリ
日報作成の効率化営業サポートアプリ
見積作成の効率化営業ロープレアプリ
提案力向上を支援製品Q&Aチャットボット
製品情報を迅速回答

27/3期目標：

6万時間／年

- 顧客情報の確認時間を短縮
- 入力業務を簡便化
- 部門間での情報共有を簡便化・効率化 等

需要予測の精度向上

- 商談情報の登録・更新・共有を徹底
- 売上見込みの精度向上

※ CRM（Customer Relationship Management）：顧客関係管理。営業活動を組織化・効率化するSFA（Sales Force Automation）機能を含む

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

15

- 全社収益改革においては、人員生産性の向上に向けた業務プロセス改革を進める中、本年7月に国内において新CRMシステムを稼働しました。
- 営業・サービス・カスタマーセンタが保有している顧客情報を一元管理、共有することで、営業提案力の強化、アフターサポートの質やスピードの向上につなげます。
自社開発のAIアプリで、日報入力や見積作成等の効率化にも取り組んでおり、年間6万時間の工数削減を目指します。また、商談情報の登録・更新・共有を徹底し、需要予測の精度向上につなげます。

7) 財政状態

(単位：百万円)

	2026/3 前期末	2027/3 1Q末	増減額		2026/3 前期末	2027/3 1Q末	増減額
流 動 資 産	177,808	167,306	- 10,502	流 動 負 債	49,428	42,056	- 7,372
棚 卸 資 産	55,992	56,174	182	有 利 子 負 債	50	50	—
有形固定資産	32,250	31,654	- 596	固 定 負 債	27,286	26,811	- 475
無形固定資産	27,222	27,016	- 206	有 利 子 負 債	22,388	21,750	- 638
投資その他資産	19,256	20,181	924	純 資 産	179,824	177,291	- 2,533
資 産 合 計	256,538	246,158	- 10,380	負債・純資産合計	256,538	246,158	- 10,380

棚卸資産回転月数 (ヵ月)	5.9	6.0
------------------	-----	------------

【流動資産の減少の理由】

受取手形及び売掛金 △161億円

自己資本比率	70.1%	72.0%
--------	-------	--------------

【流動負債の減少の理由】

支払手形及び買掛金 △35億円
賞与引当金 △31億円

- 財政状態はご覧のとおりです。

8) キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減額
I 営業 C F	5,911	8,141	2,229
II 投資 C F	- 1,160	- 328	831
F C F	4,750	7,812	3,061
III 財務 C F	- 2,582	- 3,193	- 611
換算差額	- 1,017	374	1,391
増減額	1,151	4,993	3,841
期末残高	44,213	50,630	6,417

	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減
税金等調整前四半期純利益	4億円	△3億円	△7億円
売上債権の増減額 (増加：△)	137億円	159億円	+21億円
棚卸資産の増減額 (増加：△)	△28億円	3億円	+31億円
仕入債務の増減額 (減少：△)	△10億円	△39億円	△28億円
法人税等の支払額	△35億円	△9億円	+26億円

	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減
配当金の支払額	△25億円	△25億円	+0億円

- キャッシュ・フローはご覧のとおりです。
期末残高は506億円となりました。

9) 設備投資と研究開発費

(単位：百万円)

	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減額	2026/3 実績	2027/3 計画
設 備 投 資	859	395	- 464	7,807	6,000
減 価 償 却 費	1,060	1,281	220	4,757	6,000
研 究 開 発 費	1,585	1,791	206	7,453	7,700

●2027/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、新CRM※1の導入

PLM/MES※2システム

設備投資額：約30億円

< 23/3：3億円、24/3：5億円、25/3：9億円
26/3：9億円、27/3：3億円～

PLMシステム：2025年9月稼働
MESシステム：2025年11月稼働

鶴ヶ島生産センタ

総投資額：約110億円

< 23/3：23億円（土地取得）、～25/3：41億円
26/3：29 億円（建屋・設備等）
27/3：3億円（設備等）～

着工：2024年7月
建屋竣工：2025年10月
稼働：2026年3月

※1 CRM（Customer Relationship Management）：顧客関係管理。営業活動を組織化・効率化するSFA（Sales Force Automation）機能を含む
※2 PLM（Product Life-cycle Management）：製品ライフサイクル管理、MES（Manufacturing Execution System）：製造実行システム

- 通期の設備投資、減価償却費、研究開発費の予想に変更はありません。

10) 通期業績見通し

	2026/3 実績	2027/3 予想	増減率 (%)
売上高	235,099	232,500	- 1.1
国内売上高	144,406	133,500	- 7.6
海外売上高	90,693	99,000	9.2
売上総利益 (売上総利益率)	121,726 51.8%	129,000 55.5%	6.0
販管費 (販管費率)	102,981 43.8%	105,500 45.4%	2.4
営業利益 (営業利益率)	18,745 8.0%	23,500 10.1%	25.4
経常利益	22,544	23,500	4.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,513	15,000	3.4

(単位：百万円)

← アボット製品終了、ドウエル社連結影響除く：+8%

← 為替影響除く：+9%

【地域別海外売上高】

	2026/3 実績	2027/3 予想	増減率 (%)
北米	49,808	56,300	13.0
中南米	5,613	6,200	10.4
欧州	13,649	13,800	1.1
アジア州他	21,621	22,700	5.0
海外計	90,693	99,000	9.2

海外売上高比率	38.6%	42.6%
---------	-------	-------

平均レート (円) 1米ドル/1ユーロ 150.5/174.2 150/175

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

19

- 通期の業績予想に変更はありません。
元々、第1四半期の売上ボリュームは高いことから、第2四半期以降での挽回に努めます。
- 上期売上高は、国内ではアボット製品を除くと1桁前半の増収、海外では現地通貨ベースで1桁後半の増収を見込んでいます。
国内では、補正予算の執行や本年6月の診療報酬改定に伴い、上期末から下期にかけて医療機関における設備投資意欲の回復を見込んでいます。
アボット事業に従事していた臨床経験が豊富な人財の配置転換も進めており、医療の質向上と効率化に寄与する自社の医療機器やITシステムの商談獲得に注力します。
海外では、アジア州他において中東情勢の影響を注視しているものの、北米、中南米において二桁成長を見込んでいます。
欧州でも医療機器の需要は底堅く推移すると見えています。
営業利益につきましては、アボット製品終了の影響もあり、前年同期を下回る見込みですが、全社収益改革プロジェクトの各種施策を推進し、粗利率の改善、販管費の伸びの抑制に努めます。
- 引き続き、全社一丸となって通期計画の達成を目指します。

[参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響

	2026/3	2027/3		増減率 (%)	(単位：百万円)
	実績	予想	構成比 (%)		
生 体 計 測 機 器	53,636	41,200	17.7	- 23.2	
生 体 情 報 モ ニ タ	84,258	92,300	39.7	9.5	
治 療 機 器	56,286	54,900	23.6	- 2.5	
そ の 他	40,918	44,100	18.9	7.8	
売 上 高 合 計	235,099	232,500	100.0	- 1.1	

(参考)

医 療 機 器	115,996	126,500	54.4	9.1	
消 耗 品 ・ サ ー ビ ス	119,103	106,000	45.6	- 11.0	

←アボット製品終了影響除く： +6%

←ドウエル社連結影響除く： +8%

←アボット製品終了影響除く： +10%

←アボット製品終了影響除く： +7%

為替感応度の概算値（年間）

	売上高	営業利益
米 ド ル	5.2億円	1.8億円
ユ ー ロ	0.6億円	0.2億円

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。

同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おさください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】TEL03-5996-8003